

「全鍍連」 2017年 7月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 古林 克匡 (株)日広鍍金工業 代表取締役)

「徳川家康と駿府城」

静岡県鍍金工業組合の古林と申します。

この度はとても良い機会を頂きましたので、私の住む静岡市に所縁がある徳川家康、そして「駿府城」についてご紹介させていただきます。

天正 10 年、武田勝頼が滅びると駿府は家康公の御領国となり、天正 14 年 9 月 11 日、家康公はこの地に「駿府城」を築城しました。この時、家康は「三河、遠江、駿河、甲斐、信濃」の五ヶ国を支配し、この内「駿府」を支配の拠点としていました。小田原の北条征伐が豊臣秀吉によって行われると、家康公は攻撃の先方隊として進撃しました。そしてこの戦いに勝利した家康公は東海五ヶ国の大名であったが、天正 17 年、駿河国は関白秀吉の領国となります。家康公は東海五ヶ国を手放す代わりに関東に鞍替えとなって「伊豆、相模、武蔵、下野、上野、上総、下総」のおおよそ 250 万石の大大名として江戸に移ります。

その後、慶長 5 年関ヶ原の戦いで勝利した家康公は、天下人へまっしぐらに進んでいき、征夷大將軍を息子の秀忠に譲った家康公は慶長 12 年、大御所として駿府城に入城いたしました。城作りは同時に町づくりであり、駿府城下町は大江戸が未完成の頃に一足早く完成した地方都市としては異例なほど見事な町であるばかりか、国内でも風格のある町として誕生しました。

家康の住むことになった駿府には、城や城下町を建設するために京都や伏見などから多くの高度な技術者集団が駿府に移り、大工・鍛冶屋・車屋・左官などの名工を呼び寄せていたそうです。そして今でも多くの町名が昔のまま使用されており「呉服町」「両替町」「七間町」「茶町」「伝馬町」「鷹匠町」「鍛冶町」…まだまだありますが、その町名の由来はまさにその町名の職人毎に分けられたていた町だったそうです。

また、家康公の壮大な計画として安倍川を大改修し駿河湾から運河で駿府城と城下を結び、天守の真下にヨーロッパ諸国からの船舶を着岸させるといった壮大なものだったといわれています。とてもロマンがありますが、安倍川の流れは時として凶暴な暴れ水となり実現には不可能だったそうです。

しかし海と連結する夢を捨て切れなかった家康公は、清水港から巴川を上って新しく出来た駿府城まで通じる水路を完成させ、清水港からの物資や石材を運ぶ水運に利用していたそうで、本当に通船は可能であったそうですから驚きで

す。

現在に置き換えて考えてみても全く想像が出来ないくらい凄い事で、まさに家康公の信念を貫く力の強さがわかります。そして自分の考えを皆に伝え皆を巻き込む力。今でいうベクトルを合わせることに長けている。それは徳川家康に皆が惚れ、この人の為なら計画の実現を達成しようと、自ら燃えあがる人づくりができる徳川家康は、やはり皆が惚れるだけのとてつもなく偉大な人物だったのでしょ。

そんな方が過ごした静岡市。そして今でも久能山東照宮には安らかに眠る家康公がいる。

静岡市には観光資源が少ないといわれていますが、ぜひ興味をもって静岡へお越しになっていただければ幸いです。

(株式会社日広鍍金工業代表取締役社長)